二三地方の多足類

高桑良興

東京文理科大學動物學教室

(1) 對馬產

玆に揭げるものは九州帝大農學部白水隆氏の採集にかゝる。朝鮮系統のものは混つてゐない(後出の濟州島產には朝鮮系のものがある)。

1 脣足類

Bothropolys asperatus Koch イツスンムカデ

我國全地滿洲南洋に及び分布するもの。

Monotarsobius takakuwai Verhoeff ヒトフシムカデ

Mecistocephalus marmoratus Verhoeff ブチナガヅヂムカデ

Prolamnonyx holstii Pocock ツメヂムカデ

北海道より臺灣朝鮮に至る廣き範圍に分布し，個體數も多く，41對の步肢を有するもの。

Scolopendra subspinipes japonica L. Koch アヲヅムカデ

Thereuonema hilgendorfi Verhoeff ゲジ

2 倍足類

Epanerchodus bifidus Takakuwa (ヒタカツ，ニシドマリ，權現山)

曩に熊本縣阿蘇山で捕へられたものと同種。

E. sp. ♂のみで同定困難なもの數頭。

Orthomorpha sp. ♀のみで同上。

Rhysodesmus shirozui Takakuwa (同上權現山)

アマビコヤスデの一種で，今回始めて發見せられたもので，詳しい形態は動物學雜誌6月號の速報欄で發表するが，體長25體幅4 mm 程の茶褐色のもので，生殖肢の根に大中小の3個の突起を生ずるもの。

(2) 奈良市外春日山產

次のものは東京文理科大學學生附田惠氏の奈良市外春日山に於て採集せられたもので，氏はこれと共にダニ類，等脚類其の他合計十數個を提出せられた。

1 脣足類

Bothropolys asperatus Koch (前出) イツスンムカデ

Otocryptops sexspinosus (Say) アカムカデ

日本・支那・北米に及んで分布するが，滿洲にては未だ得られず，北海道にも自然には棲息せぬやうである。

Scolioplanes maritimus japonicus Verhoeff ヤマトスコリデムカデ

紅褐色のものが多く，步脚は50對計り，*Sc.* 屬中で最も數多く又分布廣いものだが，臺灣には產せぬ。

2 倍足類

Bazillozonium nodulosum Verhoeff

本種は先年予が英彥山に於て得たもので，體長 10 mm 位で幅が廣く扁く，黃赤色を呈し 普通の馬陸の如くに體を捲曲する性がない。予はその後大阪府高見，京都市外鞍馬山で１－２個を得たが玆にまた奈良地方にも產することを知つた。

Epanerchodus japonicus (Carl)

オビヤスデ中のもので，餘り澤山はをらぬが，昨年予は竹生島に於てこれを得た。

E. sp. ♀のみにて同定できかねるもの數個。

Fusiulus acutus Takakuwa

予は先年愛知縣田原町，長野縣下條村にてこれを得た。

Glomeris sp.

タマヤスデの１種であるが，種名同定は都合に依つて後日にのばす。

Japonaria spiraligera Verhoeff

予が滋賀縣石山寺附近で得たものにつき V. 氏が新種として命名したものと同種であるが，予は同氏の記載につき疑を有し，最近日本動物學彙報で訂正せんとするのであり，今玆に得た標本につきても，予の見る所が正しいと判ずる。

Orthomorpha gracilis (C. L. Koch) ヤケヤスデ

世界的に廣く分布するもの。

Syntelopneuma sp.

本屬の日本種は3種知られて居るが，本動物はそのいづれに屬するか尚精研を要するものがあり，暫くお預りとする。

Onomatoplanus sp.

本屬には已知種2あり，その1は東京附近で予が發見したもので，他はその後，印度支那で得られたものであるが，更に予は一昨年別府附近で1新種を得た(未發表)。玆に得られたものは正に新種であるが，種々の疑點があるからこれも暫らくお預りとする。體長數 mm. で，體節20個，各背板に小疣起が4列に並んでをる。

(3) 佛　印　產

次のものは陸軍で採集されたものを，軍醫學校に關係せられる大島正滿博士の御厚意に依つて拜見したもの。

Scolopendra subspinipes haani Brandt

佛印プノンペン及びカップサンチナップの產で，內地產のオホムカデと同原種に屬する亞種で，體長150，體幅 15 mm 程の巨大なもの。本種の數亞種中の最も大なもので 200 mm に達するものもあるといふ。相當に毒が烈しいやうに思はれる。

Scolopendra morsitans L. タイワンオホムカデ

我國內地には居らぬが臺灣琉球にあり，又世界に廣く分布するもの。

(4) 比島 Atong Atong 產

次のものは山村八重子氏がヒリツピンのバシラン島 Atong Atong 附近で集められたものである。

Ethmostigmus platycephalus cribrifer (Gervais)

巨大なフルキムカデで，我が南洋に於ても小形なのを見たが，本動物は體長180，體幅 16 mm あり，各氣門が篩狀に孔を有する特徵がある。

Otostigmus politus Karsch

朝鮮・北支那にも產する種で，分布につき聊か疑がないでもない。

Scolopendra subspinipes subspinipes Leach

我國に多いオホムカデの原種である。

Polyconoceras sp.

巨大な馬陸で，體長100，體の直徑 8 mm あり，圓筒狀丸細形，黑色で各體節の後緣黃色を帶ぶ。比島には *P. cupulifer* Voges があるといふも，この動

物はそれではなく，種名同定はこれも後日發表する。

（５） 澎　湖　島

鄭枝賀氏の採集にかゝるもので，皆内地に産せぬ。

Scolopendra morsitans L. タイワンオホムカデ　前出

Rhysida longipes brevicornis Takakuwa　オンリシダムカデ

臺南に於て始めて故王雨卿氏の採集せられしもの。

Mecistocephalus multidentatus Takakuw　シマナガヅヂムカデ

49對の步肢を有し，曾て臺北にて得られしもの。

（６） 濟　州　島

上田常一氏の採集せられたもの。

Scolopendra subspinipes mutilans L. Koch　トビヅムカデ

Otostigmus politus Karsch　テウセンムカデ

前出したものであるが，これは朝鮮系に屬するもの。

Otocryptops rubiginosus (L. Koch)　セスヂアカムカデ

Prolamnonyx holstii Pocock　ツメヂムカデ

以上不完全な報告であるが，一先づ掲げることゝし，關係諸氏に深く御禮を申し上げる。

東亞蜘蛛關係文獻目錄

第15輯（1942年度第1回及1941年度分補遺）

1　工藤　茂美――チョラウグモとエドコマチグモ――採集と飼育 4―1：7，3圖
チョラウグモの生態寫眞2種及びエドコマチグモの巢の寫眞を示す。

2　高島春雄・關口晃一――口から絲を吐く蜘蛛――日本の科學 1―3：19―26，3圖
ユカタヤマシログモの奇習に關する從來の小松　植村兩氏の觀察を紹介し併せて口から絲を吐く爲の構造の組織學的所見を記してある。歌舞伎の「土蜘」に關する小記がある。

3　山田　宏治――白ひめ蜘蛛の懸巢の觀察　附．習性上からみた蜘蛛の進化――動物文學 85：62―63